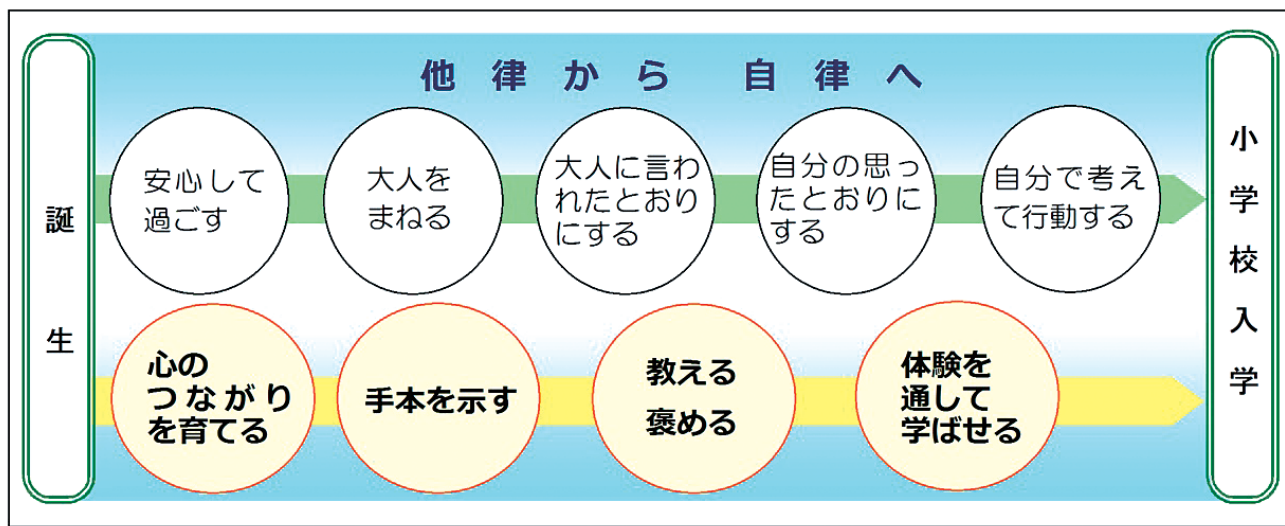


(2) 「規範意識の芽生え」の発達

幼児期は、他律から自律へと向かう時期です。始めは、大人の言うことが正しく、大人に言われたから、叱られるから従うという傾向があります。幼児は家庭や就学前教育施設での様々な経験を通して、徐々に自分で考えて行動するようになっていきます。大人は幼児の「規範意識の芽生え」の発達の状況を的確に捉えて関わるのが大切です。

《「規範意識の芽生え」の発達と大人の関わり》



- * 上段が幼児の発達、下段が大人の関わりを示しています。
- * 発達には個人差があること、場面や状況によって行きつ戻りつしながら発達することに留意します。
- * 発達に応じて幼児に気付かせていくことと同時に、大きな事故につながる危険な行為や、人を傷付ける言葉や行動などについては、毅然とした態度で接し、教えるのが大切です。

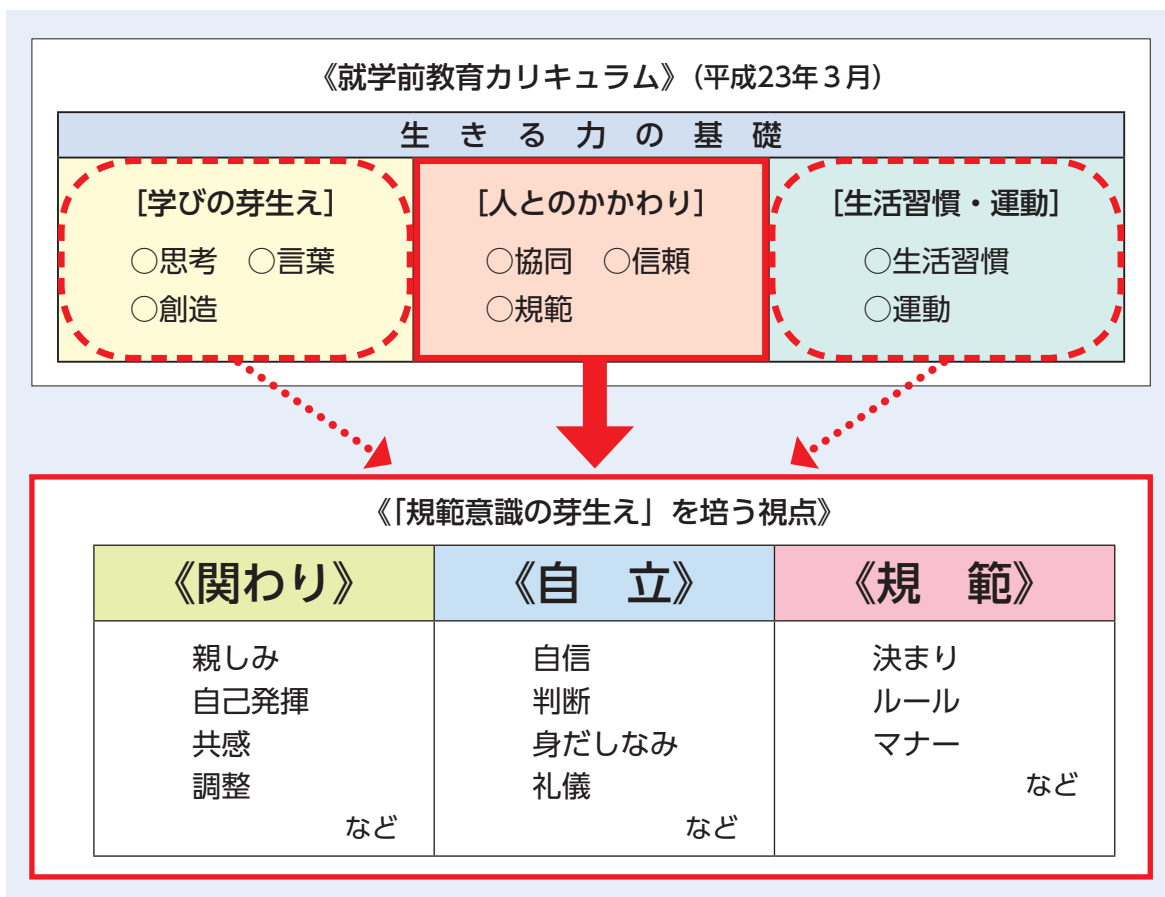
3 「規範意識の芽生え」を培う視点について

(1) 「規範意識の芽生え」を培う視点の整理

保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されているように、幼児期の規範意識の芽生えは、保育者や友達等との関わりの中で培われます。そのため、本指導資料の「指導計画」は、就学前教育カリキュラム（平成23年3月）の内容を踏まえながら、「生きる力の基礎」の要素の一つである「人とかかわり」を中心にして作成しました。

更に、これまでの都教育委員会における研究等を参考にするとともに、現在の幼児の様子や保育の状況などを考え合わせて、規範意識の芽生えを培う視点を「関わり・自立・規範」に整理しました。

《「規範意識の芽生え」を培う視点》



(2) 「規範意識の芽生え」を培うために幼児に経験させたい内容

「規範意識の芽生え」を培うために、幼児に経験させたい内容を、次のように設定しました。

《関わり》 親しみ 自己発揮 共感 調整 など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人に対する信頼感や思いやりの気持ちをもつこと ・ 自分の力を出しながら、他の幼児と共に活動する楽しさを味わうこと ・ 相手を尊重する気持ちをもって行動すること ・ 自分の気持ちを調整すること
《自立》 自信 判断 身だしなみ 礼儀 など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自信をもって行動すること ・ よいことや悪いことに気付き、考えながら行動すること ・ 自分でできることは自分でしようとする ・ その場に応じた言葉を使ったり、挨拶をしたりすること
《規範》 決まり ルール マナー など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活に必要な約束やルールを身に付けること ・ 安全に気を付けて行動しようとする ・ 周囲の状況を感じ取り、その場に応じて行動しようとする